

平成 26 年度 収集情報

項目	内容
テーマ	魚種別アニサキス寄生状況調査
調査目的 や背景	<p>アニサキスはⅠ型、Ⅱ型に分類され、ヒトに危害を及ぼすのは主にⅠ型であることが以前から知られていた。都においては、魚種別アニサキスの寄生状況について、従来から調査しており、検出したアニサキスのⅠ型、Ⅱ型といった形態的な分類を確認してきた^{2) 5)}。</p> <p>近年、分子生物学的解析によりⅠ型は <i>Anisakis simplex</i> sensu stricto、<i>A. pegreffii</i>、<i>A. simplex</i> C (<i>A. simplex</i> の 3 種の同胞種)、<i>A. typica</i>、<i>A. ziphidarum</i> 及び <i>A. nascettii</i> の計 6 種、Ⅱ型幼虫は <i>A. physeteris</i>、Ⅲ型幼虫は <i>A. brevispiculata</i>、Ⅳ型幼虫は <i>A. paggiae</i> という詳細な分類が可能となった³⁾。その中で、食中毒患者から摘出されたアニサキスの多くはⅠ型に分類される 6 種のうちの <i>Anisakis simplex</i> sensu stricto であることが明らかになった。</p> <p>平成 25 年に東京都内で発生した 87 件の食中毒事件のうち 15 件がアニサキスによるものであり、分子生物学的解析の結果 15 件全てが <i>Anisakis simplex</i> sensu stricto であった。また、原因または原因と推定される魚種は、サバ、ヒラメ、サンマ及びイナダであった⁴⁾。</p> <p>流通状況の発達や消費者の嗜好の多様化により、都内において従前では生食されることがなかった魚種が生食されるようになってきていることから、今後も幅広い魚種を原因とする食中毒の増加が懸念される。</p> <p>これまで、<i>Anisakis simplex</i> sensu stricto の寄生状況調査は、主にマサバで行ってきたが、本調査では <i>Anisakis simplex</i> sensu stricto のサバ以外の魚種別寄生傾向を把握するとともに、寄生部位及び地域別等による寄生状況を調査した。</p>
調査結果	<p>〔アニサキス寄生状況〕</p> <p>調査期間：平成 24 年 4 月から平成 26 年 3 月まで</p> <p>市場に流通する魚介類（天然及び養殖）90 魚種 750 尾のアニサキス寄生状況について検査を実施した結果、天然魚 35 魚種 119 尾からアニサキスの寄生を確認した。養殖魚 6 魚種 19 尾（イサキ、シマアジ、ハマチ、ヒラメ、マダイ、マハタ）からは、アニサキスは検出されなかった^{1) 6)}。</p>

〔*Anisakis simplex sensu stricto* の寄生状況〕

アニサキスが検出された魚種の中で、19 魚種 40 尾に寄生していた I 型幼虫の分子生物学的検査を行った結果、12 魚種 22 尾から *Anisakis simplex sensu stricto* が検出された^{1) 6)}。

	魚種名	検査魚体数	検出魚体数	検出部位
1	オオニベ	1	1	内臓
2	オニオコゼ	3	1	内臓
3	キンメダイ	19	3	内臓
4	タチウオ	20	3	内臓
5	ニシン	7	1	内臓
6	ハチジョウアカムツ	6	1	内臓
7	ヒラメ	12	1	内臓
8	ブリ	7	1	内臓
9	ホッケ	17	6	内臓 ハラス
10	マゴチ	11	2	内臓
11	マダラ	1	1	内臓
12	メジナ	11	1	内臓

※ハラス：魚の腹身（内臓周辺の筋肉部分）

（検出分布）

主に北海道及び太平洋側で検出され、日本海側や九州地方での検出は低い傾向であった¹⁾。

〔*Anisakis simplex sensu stricto* の特徴〕

一部の地域でマサバなどからの検出率が高い *Anisakis pegreffii* と比較して、*Anisakis simplex sensu stricto* は内臓から筋肉部位への移行率が 100 倍以上高かったという報告³⁾がある。そのため、*Anisakis simplex sensu stricto* が寄生する魚種では筋肉中に移行している可能性が高い。ホッケでは可食部位であるハラス部位からも検出されている¹⁾。

マサバにおいては高知県から青森県までの太平洋側で寄生しているアニサキスの 80%以上が *Anisakis simplex sensu stricto* であったという報告³⁾があるが、同じ海域であればマサバ以外の魚種であっても *Anisakis simplex sensu stricto* の分布は同様の傾向にあると推測される¹⁾。

〔養殖魚の寄生状況〕

養殖魚については、過去に輸入中間種苗由来養殖カンパチ等からアニサキスの寄生が高頻度に認められた事例があった。厚生労働省通知によると、当

該事例は養殖時に生餌を与えていたことが原因と考えられており、国内の養殖では一般的に冷凍餌等が与えられていることから、餌を原因とした寄生虫感染が起きた事例は認められていないとのことである。

〔過去3年間のアニサキスによる食中毒発生状況（件数）〕

	全国	東京都
平成23年	32	10
平成24年	65	22
平成25年	88	15

添付資料

- 1) 魚種別アニサキス寄生状況調査（市場衛生検査所調査研究資料）
- 2) アニサキス症とサバのアニサキス寄生状況
（「くらしの健康 Web 版」東京都健康安全研究センターHP）
- 3) わが国におけるアニサキス症とアニサキス属幼線虫
（東京都健康安全研究センター研究年報第62号別刷, 2011）
- 4) 東京都内で発生したアニサキス食中毒
- 5) 魚介類のアニサキスを中心とした寄生虫の寄生実態調査
（「食品衛生の窓」東京都福祉保健局HP）